現在、馬島・佐合島航路船長として勤務している柏原さんは、９月にインドで開催された第８回世界シニアバドミントン選手権大会（35歳以上の部）に日本代表として出場されました。

柏原さんが世界を目指すようになったきっかけや、これからの目標について語っていただきました。

新しい風、生涯学習。

No.299

夢の世界最高峰の舞台へ

平生町在住　**柏原 秀光**

チームJAPANの絆と熱い声援はわたしの宝物です。

熊毛南高校上関分校で初めてラケットを握ったとき、まさか20年後、わたしが年齢別の日本代表に選ばれるとは思いもしませんでした。もともと負けず嫌いなわたしは強くなりたい一心でしたが、バドミントンを始めるきっかけとなった恩師が42歳という若さで他界されてからは、強くなって恩返しがしたいとの思いがありました。

現在わたしは、週に数回、競技力の向上を図るため、岩国の実業団チームの練習に参加させていただいています。一緒に練習をしている選手が6年前、世界シニア大会で優勝され、「わたしもいつか日本代表になって世界シニアに出場したい」と夢を抱くようになり、自分を信じて努力してきました。5年前の中国地区大会では、わたしが得意とするダブルスで念願だった優勝を果たし、その年の全日本大会でもシングルス、ダブルスともにベスト32という成績でした。2年に一度開催される世界シニア大会への出場権獲得は、全日本シニア大会でベスト8以上、または協会の推薦で各種目4組だけという狭き門です。わたしは2年前の全日本大会でシングルス9位に入賞し、協会の推薦による出場が決定しました。7月上旬に通知が届いた瞬間、今までの努力が報われた気がして、言葉になりませんでした。

第8回世界シニア選手権は、9月11日からインドのコチ市で開催されました。日本代表として、シニア最高峰の舞台のコートに立ったわたしの初戦の相手は、地元インドの元ナショナル選手で、北京、ロンドン五輪の金メダリストに勝利していた選手でした。これまで20年間積み重ねた力をすべて出し切ろうと思い、長いラリーで我慢してついていき、敗れはしたものの善戦できました。3日後に行われた混合ダブルスでは、ペアの女性が東京都の人だったため、結成してから時間もなく、調整不足で敗れましたが、日の丸を背負い、日本代表として世界で戦えたことを誇りに思います。そしてトレーナーやたくさんの仲間が互いに協力し、支え合ったチームJAPANの大きな絆と熱い声援はわたしの宝物です。

わたしはバドミントンを通じて、人脈の大切さ、努力すると夢は叶うということを学びました。これからも世界でのメダルを目標に邁進するとともに、わたしの経験を若い世代に伝えていきたいと思っています。

▶世界シニア大会での試合の様子。左側が柏原選手、右側はインドのグプタ選手。

右上ロゴ：生涯学習のマスコット「マナビィ」
デザイン：石ノ森章太郎

平成29年度 田布施町人権教育推進大会　特選者紹介

問社会教育課　☎52-5813

11月25日（土）に西田布施公民館で『田布施町人権教育推進大会』が開催されました。

大会では、夏休みに町内の小・中学生から募集した作文、詩、標語を審査した結果を編纂した作品集を配付し、入選者の顕彰を行いました。

特選者は次の通りです。（敬称略）

特選者

■作文の部　2点

「ぼくのおじさん」
河原 孝虎（城南小2年）

「なんで注意ほう」
藤井 達也（田布施西小4年）

■詩の部　1点

「一言」
濱田 穂波（田布施中3年）

■標語の部　1点

「あいさつで　心のとびら　ノックしよう」
濱田 颯真（田布施中3年）

No.190

サークルスケッチ

麻郷俳句教室

■講　　師　なし
■日　　時　毎月第2水曜日
　　午後1時～午後3時
■場　　所　麻郷公民館
■代 表 者　曽我 欣行
■問合せ先　☎53-0487

麻郷俳句教室は昭和56年に発足し、中村公堂、尾尻雨窓両先生などのご指導と、先輩のみなさまのご努力により、会員は替わりながらも今日に至っております。

両先生の亡き後は、会員相互に切磋琢磨しつつ、現在は5人で月1度の句会を楽しみながら句作を続けております。

句会は、前月の句会後に決められた季語（兼題）と、その季節の季語（当季雑詠）で1人7句を出句（小短冊1枚に1句無記名で記入し提出）、清記（別の人が清記用紙に写し、誰の句かわからなくする）、選句（1人7句を選ぶ）、披講（互選の結果を読み上げる）の順に進められます。その後、選ばれた句について、1句ずつ選句者の選句理由などの発表、名乗り（作者は名前を言う）があり、最後に全員で自分の感想や意見を述べあい、次回の兼題を決めて終わります。

俳句は、自分自身では感情移入もあり、善し悪しを判断しにくいというのが特徴です。第三者の目で選ばれること、また仲間がどんな句を見せてくれるのかも句会の楽しみであり、句会終了後のおしゃべりもまた楽しみのひとつです。

俳句に興味のある人は、ぜひ句会に参加して俳句を楽しんでいただきたいと思います。みなさまのご参加をお待ちしております。